

良い物がなかったから創りだそうとした。

たくさんなかったから、たくさん作ろうとした。

そのための社会、教育、産業、経済システムだった。

モノを安く、たくさん作る。そして、たくさん捨てる。

そんな時代は終わった。

それが、そろそろ行き止まりの曲がり角にさしかかった。

泥沼の価格競争社会に向かうか。

アイデアを活かした知的基盤社会に向かうか。

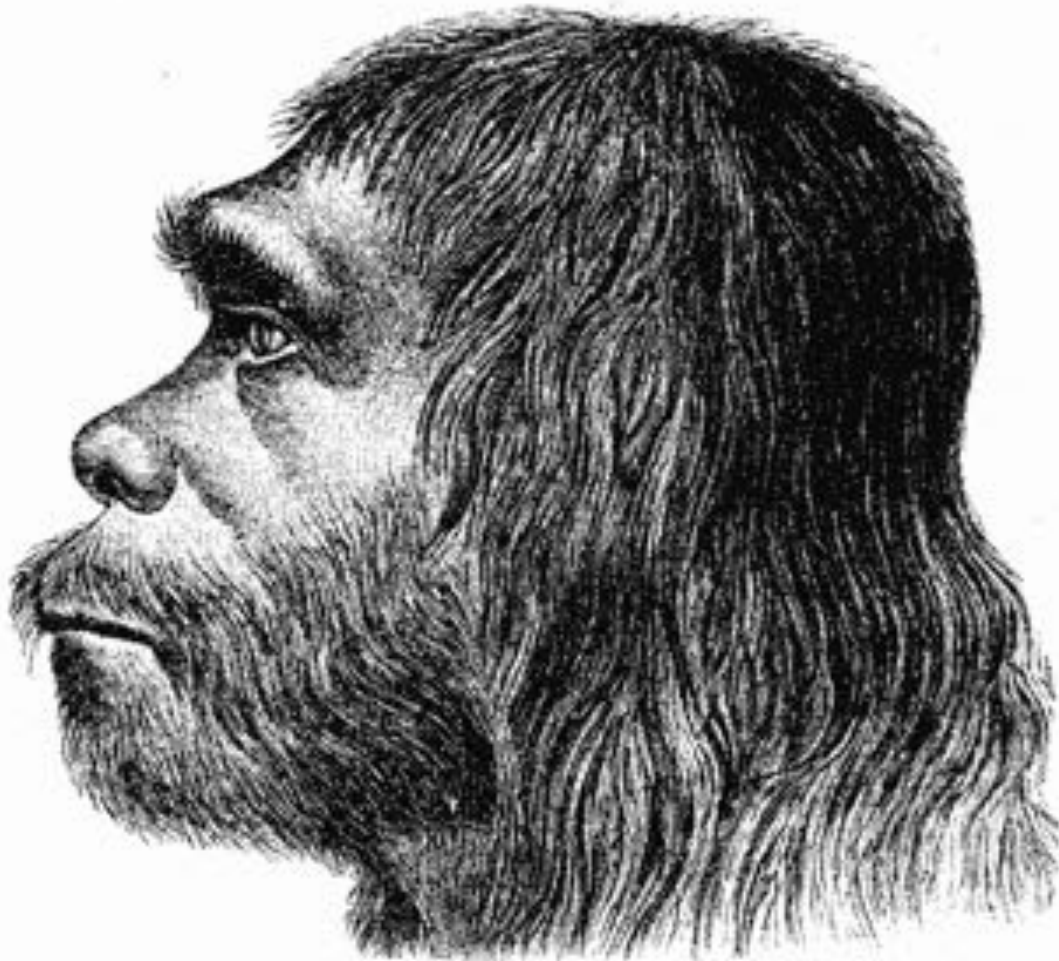
さあ、はじめましょう



川喜田 二郎 (1920- 2009)

地理学者、文化人類学者
京都帝国大学文学部地理学科卒業

🕒 アイデア・ラボ (β)



本日のKey Word
「ミッシング・リンク」

🕒 アイデア・ラボ (β)

改めて、自己紹介、ゲーム形式で



まあ一度やってみましょうか

🕒 アイデア・ラボ (β)

収束法（KJ法）をがうまくいかない理由

1. 既存のフレームワークを持ち込んでいる

ソフト面

内部

問題

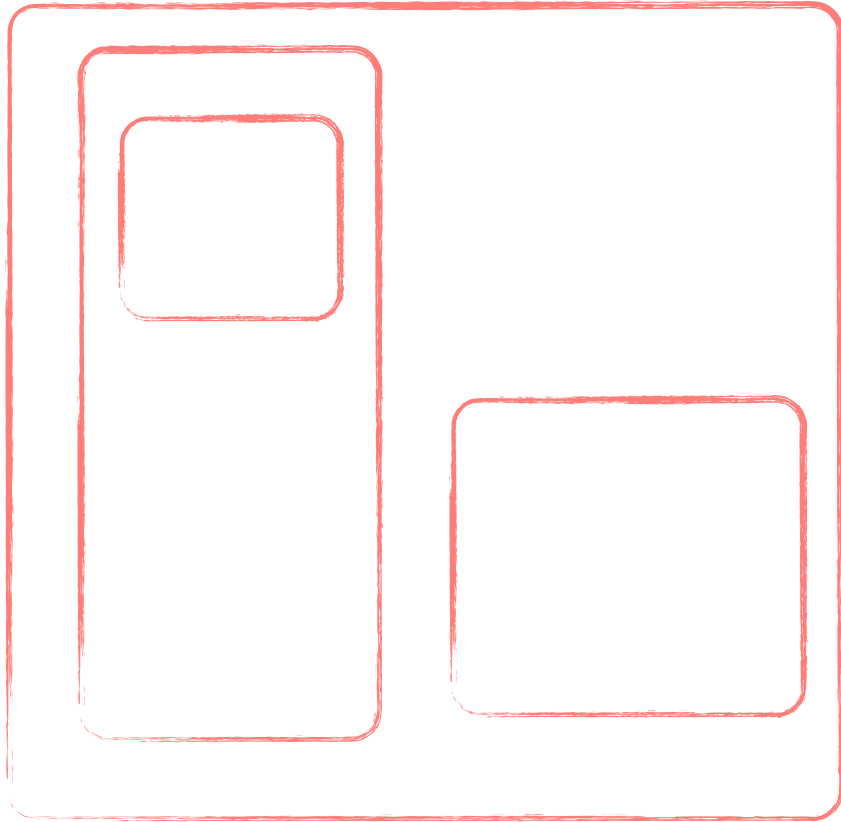
ハード面

外部

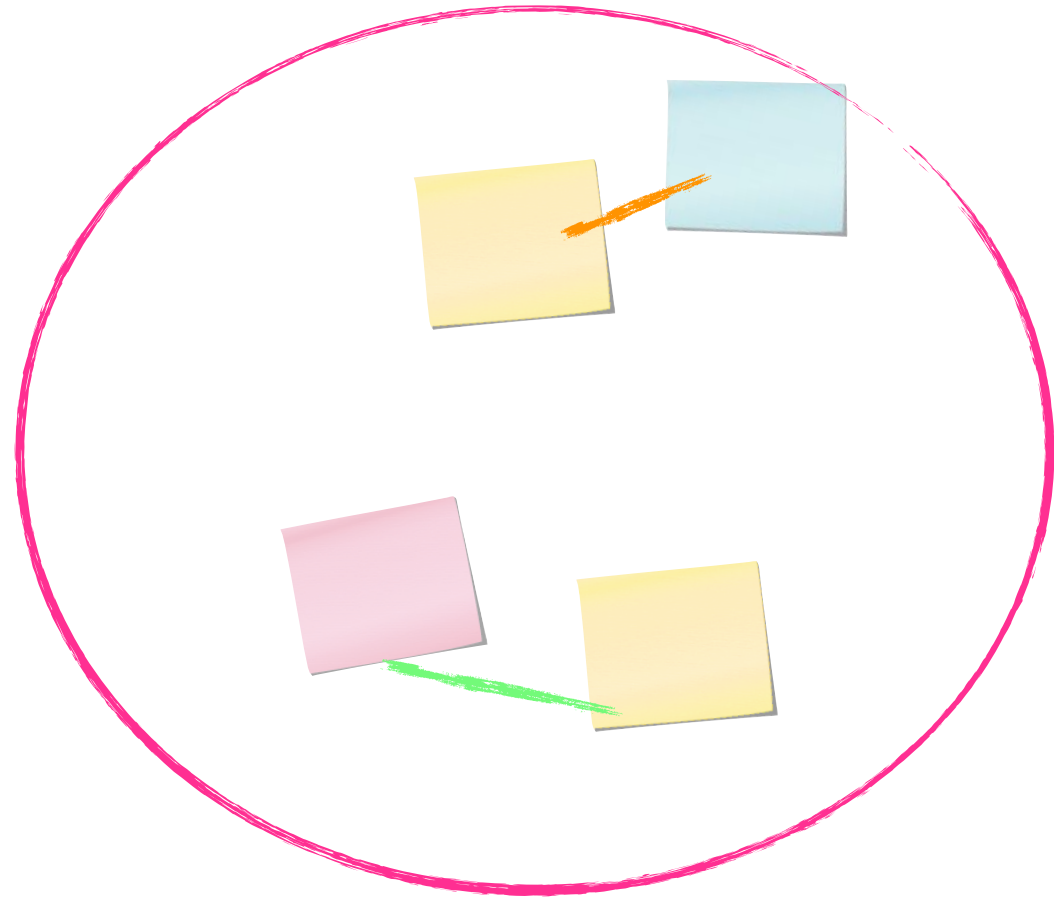
解決策

1. 既存のフレームワークを持ち込んでいる

2. 大分類 → 小分類の順番で考えている



大分類→小分類



つながり

結論！
収束法をうまく機能させるためには！

カードとカードをつなぐ、
「ミッシングリンク」を探して、
小さい分類をどんどん大きくしていくこと！

収束法で目指すことは

- ・ 上位概念化
- ・ 新しいつながりを探す
- ・ 仮説の発見

では、もう一度やってみませんか

インスピレーション

① アイデア・ラボ (β)

ふりかえり

まちづくり人養成講座～新しい時代の「話し合い」入門～

意見（アイデア）を収束させる方法を知ろう

2015/10/21

アイデア・ラボ（β）代表 池山敦